



松山市祝谷町1丁目5-33
愛媛県教育研究協議会
編集 情報宣伝部



愛教研綱領

われわれは、日本の伝統をふまえ、広く世界の進運に目を注いで、人類の福祉と文化の向上に役立つ、清新はつらつとした日本教育の充実発展にまい進する。

一、教育専門職としての使命感に徹し、正常な教育の進展をはかる。

一、研究を積み、人格と識見を高め、教職員の誇りと責任を自覚する。

一、身分の保障、勤務条件の改善に努め、社会的・経済的地位の向上をはかる。

一、児童生徒とともに生き、国民の信頼と期待にこたえる。

一、会員の親和を密にし、友好団体と提携して、組織の強化拡充をはかる。

第四十八回 愛媛県教育研究大会（統一大会）を開催

令和三年八月四日（水）、愛媛文教会館において、「第四十八回愛媛県教育研究大会（統一大会）」が、初めてのオンライン配信によるハイブリッド形式で開催されました。

大会の様子は、当日だけでなく、その後の配信によって大勢の会員に視聴されました。

なお、本大会の詳細については、後日発行の『第四十八回愛媛県教育研究大会（統一大会）研究集録』を御覧ください。

基調提案の概要

愛教研では、平成三十年度から大会主題を「子どもが変わる教育の推進」が変わる教育の推進「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業の創造」と設定し、令和六年度まで、その実現、達成を目指して取り組んでいます。

Society5.0へと社会は急速に変化する中、この変化に対応できる子どもたちの資質・能力は何かということを追究しながら、スピード感を持って実践研究を進めていきたいと思えます。

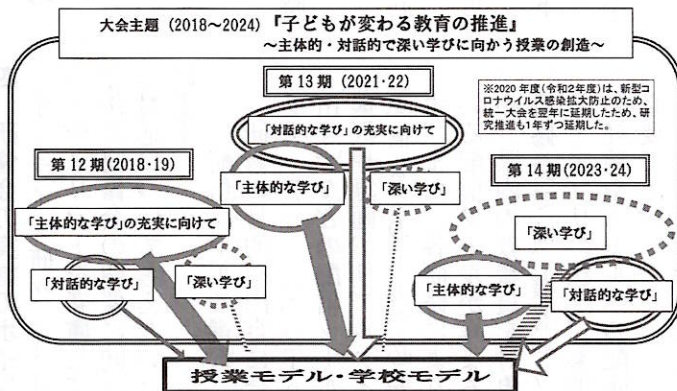
また、新学習指導要領が全面実施となり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求めら

れています。

前期（第十二期）の「主体的な学び」を焦点とした研究の成果と課題を踏まえて、本年度からの二年間（第十三期）は、「対話的な学び」にスポットを当て、重点的に研究を進めていきます。

「対話的な学び」に関する授業改善の視点は、カードとして研究集録にも掲載されていますので御確認ください。これらの視点を活用して、各支部の学校や各教科等・専門研究委員会で研究推進を図っていただきたいと思います。

教育研究局長
渡部 ゆかり



研究推進の概要 - 2年サイクル6年スパンの研究のイメージ



平松 義樹 名誉教授の講演

・講演
演題 「童話『もも太郎』から「考える」を考える」
講師 愛媛大学
名誉教授 平松 義樹

・開会式
挨拶
愛媛県教育研究協議会
会長 玉井 啓二

大会主題
「子どもが変わる教育の推進」
「主体的・対話的で深い学び」
「深い学び」
「主体的な学び」
「対話的な学び」
「授業の創造」

参加者 四八〇名
（四二〇名は、オンライン参加）

・閉会式
挨拶
愛媛県教育研究協議会
副会長 宮岡 真司

・基調提案
愛媛県教育研究協議会
教育研究局長 渡部 ゆかり

・研究指定校研究推進計画報告

新居浜市立金子小学校
教諭 河野 直美

金子小アドバイザ
愛媛大学教育学部
教授 鴛原 進

新居浜市立南中学校
教諭 高屋 正

南中アドバイザ
愛媛大学教育学部
教授 日野 克博

○愛教研研究部アドバイザ
愛媛大学大学院
教育学研究科
教授 城戸 茂



研究指定校による研究推進計画報告

オンライン配信を活用した研修の在り方

新型コロナウイルス感染症は、人々の生命や社会生活に多大な影響を与えており、学校教育においては、児童生徒や教職員の安全を守りつつ、学びを確実に保障し得る環境の構築が求められています。

GIGAスクール構想によるICTを活用した教育活動の進展とともに、教職員の研修では、密閉、密集、密接の「三密」を回避するためにオンライン配信を活用した研修が増えていきます。

今年度の愛媛県教育研究協議会の各部署、各教科等・専門研究委員会では、オンラインによる部会や研修会が実施されました。視聴覚・情報教育委員会においてもオンライン配信による研修会を行いました。そこで、オンライン研修のメリット・デメリット、オンライン研修の方法や注意点などについて解説します。

一 はじめに

オンライン研修は、二つのタイプがあります。講師と参加者がリアルタイムでコミュニケーションがとれる双方向型、もう一つは、あらかじめ用意された学習コンテンツや録画した映像資料を視聴するオンデマンド型です。本稿では、コロナ禍で集合研修の代

替手段として注目される双方向型のオンライン研修について述べます。

二 オンラインのメリット

- (一) 開催者の手間を省き、参加者と講師の移動の時間や会場を問わない。
- (二) 費用削減ができる。
- (三) 講師と参加者の双方向性の学びができる。
- (四) 参加者の状況確認が可能である。
- 三 オンラインのデメリット
- (一) 参加者の意欲の持続と参加者間の交流に配慮が必要である。
- (二) 実習型の研修は、プログラムや機器の準備等の工夫が必要である。
- (三) 参加者の反応がつかみにくい。基本的に参加者のカメラやマイクをオフにしている。



オンラインによる講演

四 研修会の実施のポイント

オンライン研修のメリット・デメリットを考慮して、今後の研修会の開催に向けての対応について考えたいと思います。

(一) 配信ツールの選択

研修の目的や内容に合わせて「Zoom」、「Teams」などの配信ツールの選択や録画、リアルタイム配信などの工夫が必要で

(二) 研修会の計画立案

研修会では、時間配分や内容に無理のないスケジュール管理が大事です。研修時には、休憩時間やグループで話し合う活動などを設定することが大切なポイントになります。

(三) 双方向性の活用

参加者のカメラのオン・オフを適宜指示して、講師と参加者のコミュニケーションをとると効果が上がります。

五 事前準備のポイント

オンライン研修の実施のためには、準備物等が必要になります。

(一) 事前の準備物

オンライン研修には講師、参加者ともにパソコンやタブレット、必要に応じてマイクやカメラ、ヘッドセット等を使用します。また、デジタルビデオカメラ等を用いる場合は、アダプターやスイッチャーが必要になります。さらに、ホストになる開催者は、機器操作の習熟が肝要です。

(二) 事前の接続確認

研修を円滑に行うためには、事前の接続確認が大切です。また、参加者との連絡方法（メールやSNSなど）の確保も重要です。特に外部講師に依頼している場合は、先方の機器や環境設定によって、画面共有で動画再生等の不具合が生じる場合があるため、確認が必要で



ホスト側機材の準備

(三) 機器の担当者の選任

研修会では、接続や機器

のトラブルを想定して、機器担当者を選任しておくことが安心です。

愛教研のZoomアカウントを使用した研修会を開催する場合は、共同ホストの設定が可能です。ホストの機器に不具合が生じても共同ホストの機器で研修の継続が可能になります。

(四) コミュニケーションツールの活用

研修効果を高めるには、参加者の質問や発言の機会を確保することが大切です。チャットや「手を挙げる」等の操作により、コミュニケーションをとることが可能です。

六 終わりに

今後、オンライン配信による研修はますます増えていくことが考えられます。オンライン研修に向けて、機器の操作や設定のスキルアップ、運営のファシリテーション能力の向上なども課題になります。これらは、オンライン授業の配信にもつながるものです。愛教研事務局には、オンライン研修に必要な機材等の整備に協力していただいています。視聴覚・情報教育委員会では、オンライン研修に関する情報を愛研ホームページにて提供していく予定です。

(視聴覚・情報教育委員会) 委員長 原 佳嗣

第四十八回 教育文化講演会

演題 「人生トータルで幸せな先生になる為に」

講師 澤田 真由美 氏 (合同会社 先生の幸せ研究所代表)

講演会は、当初、松前総合文化センターでの開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、八月二日(月)、オンラインで実施した。

講演では、以下の三つの「思考法」によって、ワークライフバランスを考える方法を紹介していただいた。

ずっと役立つ思考法①
タイムマネジメント

定時までの時間に仕事を収められるようにするタイムマネジメントのために、次の五つの取組が挙げられる。

- 1 時間を生み出すと強く決める
- 2 タスク洗い出し
- 3 やらないことを決める・システムづくり
- 4 期限から逆算してタスクを振り分ける
- 5 突発対応を未然に防ぐ方法を考える・スキルアップ

特に、「2 タスク洗い出し」については、自分の仕事を洗い直して、その仕事の無駄をなくしたり、取組の質を上げたりすることができると考えることが大切である。

ずっと役立つ思考法②
時間と効果が見合っているか

教育現場はたくさんのお仕事を抱えているが、それらの洗い出しをすることでタスクを見直すことができる。横軸を



オンライン配信の画面を通しての講演

時間の長・短、縦軸を効果の大・小で2×2の表を思考ツールとしてタスクを見たときに、まずは「しないことを考える。」そして、「工夫して時間短・効果大(ゆとりゾーン)のゾーンに近づける。」ということが大切になる。目指すのは、「必要なことに必要な時間を掛けられること」である。また、衛生要因(教師の命と健康、日常の授業、子どもの心身の健康)と加乗要因(凝った掲示物、学習指導要領外のこと、プラスα)についても考えておかなければならない。衛生要因は、教育の土台となるものである。加乗要因に力を入れ過ぎるとバランスが悪く、時間や価値を生み出すことができない。

ずっと役立つ思考法③
手段が目的に向かっているか

「目的をはっきりさせると手段が変わる。」私たちは、バイアス(思考の偏り)によって思考や行動の癖が出る。バ

イアスは生い立ちや環境などによって作られているが、大切なことは、自分や他人の思考と行動にはバイアスが掛かっていることを自覚することである。それが分かると見える部分から見えない部分の理解を目指すことができる。対立から対話へと向かうことができる。

バイアスに気付く、思考を自由にしておくことで自分の可能性も周囲の可能性も広がる。「それから本当なの?」「いつからそう思っているの?」というクリティカルシンキングをすることで可能性を広げることができ、その場合にも、目的を羅針盤にしておけば、方向を見失うことはない。

講演を視聴して

働き方改革が言われるようになり、教員の長時間労働が問題となつていく。各学校においていろいろな方法がとられていくと思うが、まだ十分進んでいないところもあるのではないだろうか。今回、具体的問題の洗い出しや取組を紹介していただいた。自分自身まだ「これまでやってきたことだから」とか「早く帰るとさばっているように思われるのではないか」とかいいうバイアスがあるように思う。

講演の中で、「ワークライフ

バランスを考え、ライ

フが

上がることで、私

たちの心身

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

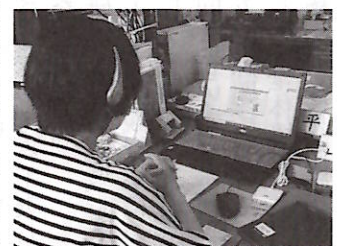
が

が

が

愛教研
ライフプランセミナー

八月二十日(金)に予定していた標記研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催となりました。その収録を、八月十八日(水)に行いました。本事業は、愛媛県教育委員会教職員厚生室や公立学校共済組合愛媛支部などから講師をお迎えして行っており、例年二百名弱の参加希望がある愛教研の人気事業です。



各自が学校等でパソコンを通して研修



教育公務員弘済会からの情報提供



講話「退職後の生活設計」

〇退職金や年金等について
退職手当の計算方法、支払いは、退職後の住民税等について話していただきました。年金については、その種類、仕組み、月額計算方法、支給の繰下げ、受給要件等について、分かりやすく教えていただきました。

〇ライフプランについて

ファイリエイテッド・フアインランシャル・プランナーの方に、子どもの教育資金、住宅購入費、医療保障、賠償責任等について、例を挙げて分かりやすく説明していただきました。

私たちは、医療、介護への備えも含め、自己責任で自分の生き方を決めていかなければなりません。この研修が、より多くの方々に広まり、少しでも早い時期からより具体的なライフプランを考えるきっかけになれば幸いです。なお、この研修は、冬季休業中にも配信する予定です。(大洲市立肱川小学校 二宮 光浩)

教育法令研修会

教育法令研修会は、例年法制情報局の法制対策部と情報宣伝部が合同で開催している。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、紙面での質疑応答という形で行ったが、今年度は八月十九日(木)、愛媛文教会館からオンラインで実施することができた。講師には、愛教研顧問弁護士武田修治先生をお招きした。武田弁護士には平成十六年から愛教研の顧問弁護士として御指導をいただいております。本研修会の講師も十七回目となる。「学校教育と法律」判例等に学ぶ」という演題で御講話いただいた。



オンラインで講演する
武田弁護士

一 主な研修内容

【子どもを取り巻く諸問題】

○子ども同士のトラブルなど学校に対する保護者の要求への対応等について

・学校に責任があるか、学校が介入できるか、いじめの端緒と考えられないか、保護者の

の要求は子どもの意思に添うものかなどの視点で検討し、対応していく。学校で対応すべき内容ではない場合は、保護者へ説明し、理解していただく。謝罪については道義的な問題であり、学校から強制はできない。

・対応については、事実関係や要求の内容をしつかり確認することが大切である。はっきりしない段階では、回答に留意する。解決の最終的な権限を持つのは裁判所である。学校は裁判を恐れることはないのである。対応の窓口としては、校長が行うと、最終結論となり修正など難しいこともあるため、校長ではない方がよいと考える。

・学校管理下外でのスマートフォン(ライン)を使ったトラブルについては、教育的配慮から指導をした方がよいと考えられる場合もあるが、法的に要求されるものではない。

・学校に通わせない家庭については、教育委員会と協議して対応する。

・PTAへの加入については、加入を強制できるものではなく、加入しなくても法的にも違法ではない。活動内容や教育上の意義を伝えて賛同してもらえるように働き掛ける。

【危機管理・事故対応】

○新型コロナウイルス感染症

対策やリモート授業について

・感染症対策については、国や県などからの要請を受けて学校で検討し、対応を家庭へ説明する。子どもを学校行事へ強制的に参加させない方がよい場合もある。

・タブレットを家庭へ持ち帰ることに関するトラブルの事例は今のところはないが、今後は出てくる可能性がある。検討していく必要がある。

【その他】

○教職員のテレワークやハラメント対応についても適切な御助言をいただいた。

二 所感

法的な立場から御指導いただき大変勉強になった。事前に会員から寄せられた質問事項について、詳細な資料を準備していただいた。それを基に会員のニーズに答えるべく、解説し見解を述べていただいた。

オンラインによる研修会も問題なく実施でき、紙面ではなく直接お話を聞くことができたことが有意義であった。保護者、地域などへの対応は、一層複雑化し、新たな課題が出てくると考えられる。今後このような研修の場を持ち、多くの会員に積極的に伝えていくようにしたい。

法制対策部長

久保田 貴章

講師・助教諭・養護助教諭等 研修会

六月三十日(水)、西条市立国安小学校を会場に、本研修会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となりましたが、今年度は規模を縮小しての開催となりました。研修会には、十九名の講師・助教諭・養護助教諭等の先生方が参加し、授業参観、研究協議、指導講話などが行われました。

授業参観では、本校二年生(指導者 田窪瀬里奈教諭)の算数科「100をこえる数」の授業を公開しました。電子黒板などのICT機器を活用しながら、子どもたちは、どのように百を超える数を数えたらいかがを意欲的に考えました。個人やペア、全体学習など、様々な指導形態を取り入れながらの授業でした。友達と意見を出し合い、学ぶ楽しさを味わえる工夫した授業となりました。

研究協議では、まず小グループで参観授業について協議し、その後、日頃児童生徒と向き合いながら抱えている悩みや課題について話し合いました。全体協議においても、積極的に意見や感想を発言す



公開授業の様子

る先生方に、これから教師の道を進んでいこうとする熱意を感じました。指導助言の先生からは、教科経営の基本について話していただきました。最後に、東予教育事務所の先生方から、教職員の服務やこれからの教育課程について大変貴重な御講話をいただきました。間近に迫った教員採用試験だけでなく、教育者として身に付けておかねばならない基本的内容や教師としてあるべき心構えについても学べる機会となりました。

参加者の感想として、「他校の同じ仲間の先生と知り合えるよい機会となった。」「他校の先生の授業を参観させていただき、良い勉強になった。」「採用試験に向けてのアドバイスや励ましの言葉に勇気をもたらった。」など多数の声があり、大変有意義な研修会となりました。

西条市立国安小学校

山田 裕之

愛教研ピラティス教室

福利厚生部では、中央ボウリング大会に替わり、今年度は新たに、「ピラティス教室」を実施しました。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、講師の先生に直接指導していただくことがかなわず、オンライン配信での開催となりました。講師の先生の御厚意もあり、動画配信期間が五日間となり、職場や家庭などで視聴でき、会員の皆様のライフスタイルに合わせた有意義な研修になったことと思います。

さて、今年度実施したピラティス教室ですが、そもそも「ピラティスって何？」と思われる方もいらっしゃるのではないでしょうか。

本教室では、「ピラティススタジオELLIXXIR」木下絵理先生を講師に迎え、ピラティスについての講演を聞き、体験するという流れで実施しました。



ピラティスについての講演

【ピラティス講演会】

1 ピラティスとは？

「ピラティス」とは、考案者であるジョセフ・ピラティスさんの名前から付けられました。ドイツで生まれたこのエクササイズは、主に医療の場でリハビリテーションとして行われていたそうです。

2 どんな運動？

ストレッチを中心とした運動で、呼吸を意識して行うことで、インナーマッスルを効果的に使うことができるそうです。

3 どんな効果があるの？

人の体は、知らず知らずのうちに、自分にとって楽な姿勢や動き方を習慣化させてしまっている。そこで、ピラティスによって、筋肉のバランスを整えたり、正しい体の使い方を習慣化させたりすることで、けがをしにくくなるなど、様々なメリットがあるそうです。

- ・呼吸が深くなる
- ・インナーマッスルを使える
- ・内臓が正しい位置に戻る
- ・自律神経を整える
- ・姿勢が良くなる
- ・身体が引き締まる
- ・スタイルが良くなる

ピラティスによる効果

【ピラティス体験】

講演の後には、木下先生の指導の下、三十分程度のピラ

ティスを体験しました。また、今回は、日常の中のちょっとした時間にも行うことができるよう、椅子を使った運動を中心に教えていただきました。まずは、正しい姿勢づくりから始まりました。骨盤を意識し、立てて座ると、すっと背骨が伸び、姿勢が整いました。次は、肩甲骨のストレッチです。呼吸をしっかりと意識しながらストレッチすること、筋肉がほぐれてきました。その後、体のいろいろな部分を効果的に使うことができる運動ができました。普段使うことができない筋肉をしつかりと動かし、気持ちのよい時間を過ごすことができました。



ピラティス体験

どの年代の方でも、特別な器具がなくても、今すぐできる「ピラティス」を、ぜひ皆さんも体験してみましよう！

(四国中央市立中之庄小学校 松本 俊樹)

第十四回愛媛県公立小中学校事務職員研修会

本研修会は、毎年、公立小中学校事務職員を対象として、愛媛県生涯学習センターを利用して実施している。前年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策により実施自体を中止した。今年度は参集して実施することを目指し準備していたが、参集して実施する状況にはないと判断し、オンラインによる研修に変更して実施した。

講座数は三講座で構成し、第一講座は、「組織力」を観点とした組織貢献力に関する内容で、事務長、事務係長を対象とした講座である。学校運営に生かせる学校組織マネジメントの具体的な方策について研修を行った。第二講座は、「遂行力」を観点とした情報管理する力に関する内容で、専門員、主任を対象とした講座。情報を収集・蓄積・分析し、教育活動・職務に生かすとともに、有益な情報を提供する方策について研修を行った。第三講座は同じく「遂行力」を観点とした事務処理能力に関する内容で、主事を対象とした講座。令和二年度、三年度の条例や規則等の改正事項に関する人事、服務、給与等の実務研修を行った。

今回実施した講座のうち、第一講座及び第二講座は、愛媛県総合教育センターの出前講座を活用した。内容の構成については、事前に相談させていただき、第一講座を企画開発室長の川崎洋幸先生に、第二講座を、情報教育室の加藤憲司先生に担当していただいた。第三講座については、事務職員部研修委員会が担当して実施した。

例年、本研修会の企画に当たっては、事務職員部の研修委員会、情報委員会、法制対策委員会及び愛媛県公立小中学校事務係長会で各講座を担当し研修内容を決定していたが、昨年十月に愛教研事務職員部として「わたしたちが思い描く事務職員のキャリアイメージと指標」を策定したことに伴い、今回の研修会から、この「指標」に基づいた内容で研修を実施することとした。

この「指標」は、事務職員に求められる資質・能力を職階ごとに整理したものである。今後は、「指標」に基づき体系化した研修計画を推進することで、研修の目的や位置付けが明確になり、研修意欲の向上につながることで、できると考えている。これから、効果的な研修内容を工夫し、研修の充実に取り組みたい。

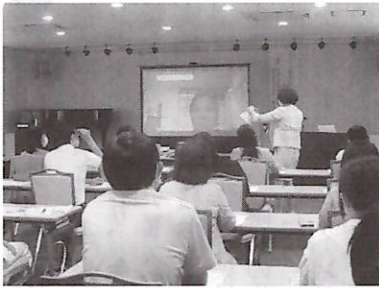
(事務職員部研修委員会)

栄養教員部 リーダー研修会

七月二十七日(火)、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、初の試みとしてZoomを活用したリモート研修会を実施しました。

栄養教員部では、二期からのコロナ禍での給食開始に当たり、私たち栄養教諭だけでなく、調理従事者と一緒に衛生管理体制を見直し、より一層の安全・安心な給食の実施に取り組むことが重要と考えました。そこで研修会では、まず、「ノロウイルス感染症と学校給食」と題した感染症の具体的な事例について、栄養教員部長が話をし、調理従事者による感染症について改めて考えていただく機会としました。

講演では、「カロリー密度に着目した寄り添う食事デザインシエット」と題して、徳島大学大学院医歯薬学研究部奥



Zoomを活用した研修

村仙示先生に御講演をいただきました。「野菜たっぷり牛(ぎゅう)つと巻いて ポリウムアップ」などキャッチフレーズになる川柳を提示していただきながら、食品1g当たりのエネルギー(カロリー密度)に注目した「油を使用したカロリー密度の高い食事より、野菜を多く使用したカロリー密度の低い食事の方が、満足感・満腹感につながる」というデンシエット基準の考え方を教えていただきました。子どもや保護者にも分かりやすく、栄養教諭にとっても多くの栄養指導のヒントを得ることができた貴重なお話でした。



講師による指導講話

山市知代指導主事には、食をめぐる現状における課題から策定された「第四次食育推進基本計画」について、概要及び目標達成に関連する取組事例、学校給食実施基準の一部改正について御指導をいただきました。学校給食におけ

る地場産物の活用は、日本の伝統的な食文化の理解のために必要であり、そのためには、協力体制の構築が重要であると述べられました。食育推進の目標を達成できるようSDGsの観点を踏まえて総合的に推進し、職務に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、各支部より事前に提出いただいたICT機器の活用による取組事例の報告や地場産物を活用した給食指導についての質疑応答を行いました。給食時の喫食場面の指導が難しい中、電子黒板を使った地場産物の紹介や、タブレットを使用した児童生徒の嗜好調査の事例等を聞き、充実した情報交換となりました。

参加者からは、「講師の奥村先生のお話は、ユーモアに富み、共働き家庭など様々な状況にある家庭に寄り添った内容であり、今後の保護者の相談や食育の授業に活用したい。」との感想が出されるなど、充実した研修会となりました。

今回の研修内容を各支部の会員と共有し、専門職である栄養教諭の資質・能力の向上を図るとともに、安全で魅力ある学校給食を通して、食に関する指導の更なる充実に努めていきたいと思っています。

今治市立近見中学校
(石山 香)

しあわせ

必ず夜は明けると信じて

昨年から、新型コロナウイルス感染症に全世界が影響を受けている。学校現場では、感染拡大防止対策に力を入れる必要があり、多くの教職員がその対策に時間をとられている。学校行事の縮小、延期等も余儀なくされた。また、日常生活では、移動の自粛、会食の制限、感染対策の徹底等、行動の制限が必要になっている。さすがに、長期間制限が続くとストレスがたまってくる。

「明けない夜はない」という言葉を信じて、今を乗り越えていきたい。

夜が明けたら、何をしようかと考える。「旅行に行く」「職場の仲間や友達と一緒に懇親会をする」「温泉めぐりを」「キャンプに行く」等、やりたいことを考えると楽しくなってくる。我慢した後の自由な行動は今まで以上に充実感を持てるのかもしれない。「必ず夜は明けると信じていこう、この難局を乗り越えていきたいと考えている。」

情報宣伝部 常任部員
松前町立松前中学校

藤井 忍

結婚おめでとう
ございます



(令和3年9月30日
までの受付分)

謹んで哀悼の意を表します

松木 平様

新居浜市立新居浜小学校
令和三年七月二十九日

仲田 順 一様
松山市立城西中学校
令和三年八月二十四日

揚野 豪恭	城南中	33	28
片岸 力丸	角野小	35	19
村上 幸輝	弓削小	35	19
高橋 桃子	神戸小	36	1
小田友里絵	拓南中	36	19
山本 果央	松前中	37	1
川上 太一	国安小	37	7
山田 千夏	垣生中	37	7
小池 健介	今治日吉中	37	24
和氣 京美	河野小	37	27
井上 大悟	土居小	38	2
稲荷 万祐	砥部小	38	8
植田 孝裕	野村中	38	8
國米 敏宏	砥部小	38	9
佐々木 文	松柏中	38	9
田中 歩芽	三島南中	38	18
山川 義弘	宮窪小	38	18
酒井 亮太	神拝小	38	19
石村 美弥	三島小	38	20
高橋 新	川之江南中	38	22

意欲あふれる壮年部に！ 「コロナ禍の今だからこそ！」

壮年部 部長 眞山 昭一

「今年度は是非、愛教研の行事を実施していこう！」と明るい展望を持ちながら始まった令和三年度。しかし、愛媛県の新型コロナウイルス感染状況が全国的にも厳しいものになるにつれ、その意気込みはしぼんでいきました。オリンピック・パラリンピックや高校野球は実施しているものの、全国的に感染は収まらず、拡大の一端をたどっています。そのため、愛教研の理事会等が書面表決やリモート会議になり、研修会が次々中止になっていきました。でも「壮年部研修会は、縮小しなくてもやってみよう。」と準備を進めてきました。しかし、感染力が強く、感染が広がっていることから、やはり、延期することになりました。私は、伊予支部に所属していますが、伊予支部でも県外へのボランティア活動や会員同士の交流会なども中止になりました。これでは組織としての活動が衰退し、仲間意識が薄れ、活動意欲がなくなってしまうのではないかと危機感を感じました。先生方の支部ではいかがでしょうか？

さて、ネガティブなことばかり考えていても、何の解決にもなりません。こうした状況は今後も続くと思われ、活動を続けていかなければなりません。では、どのような方法があるでしょう。その解決策の一つとして、先生方の勤務校で行っている行事等のノウハウを生かすことはできないでしょうか。学校行事や集会活動などを実施するため、先生方が知恵を絞り、感染拡大防止対策を行って実施していると思います。その実施方法や内容、効果などの情報を共有し、愛教研の行事に生かすことができれば、少しでも実施可能になってくるのではないのでしょうか。愛教研の行事が一つ、また一つとできるようになってくると、先生方とのつながりも強くなり、制限はあるものの、以前のように意欲あふれる活動になってくると思います。

各支部とのつながりを強く、充実した活動にするためには、先生方のお力をお借りするしかありません。是非、この苦境を乗り越え、意欲あふれる愛教研にしていきたいと思えます。御協力、よろしく

くお願いいたします。

(砥部町立麻生小学校)

副部長 大澤 陽子

今までに経験したことのない新型コロナウイルス感染症の流行で、学校生活にかなりの制限が掛かりました。それは、私が受け持っている小学一年生でも同じです。毎日のマスク生活、楽しい学校行事の中止や削減などに気持ちも沈んでいました。でも、改めて状況を見直してみると、コロナ禍ではあるけれどプラスの面もあることに気が付きました。

まず、黙食です。座席は前を向いたまま、黙って給食を食べています。楽しくおしゃべりをしながら会食することは、大切な給食指導の一つかもしれません。今はそれができないかもしれません。「いただきます。」と言ってマスクを外した瞬間からみんなが黙々と食事を始めます。おいしい給食を作るまでに携わった方々に感謝しながら、よくかんで食べるのができています。食べることに集中できるからか、例年に比べて残食が少ないです。いいこともあるじゃないか！
それから、水泳指導です。ぎりぎりまでマスク着用。

シャワーを浴びる時にも声を出すのをぐっと我慢。いざプールに入るときも黙って、黙って…。先生の指示もしつかり通るので安全だし、「おしゃべりは止めます。」と叱責で活動を中断することもないため無駄な時間は省けるし、泳ぐ技能の上達が早い気がします。いいこともあるじゃないか！

こんな感じで、一年生も多くの制限の中で頑張っています。でも、早くマスクなしで大声で歌ったり、大笑いをしたりしたいなあ。

(内子町立内子小学校)

副部長 高田 匡之

コロナ禍での学校生活も二年目を迎え、未知のウイルスへの混乱も少しずつ解消されてきているように感じている。そのような変化の要因は、昨年度、できることを工夫し、試行錯誤しながらも取り組み続けてきたことの蓄積にあると思う。そして、それ以上に

大きな要因と感ずるものが、児童自身が感染予防のための活動の必要性を理解し、新しい生活様式として受け入れ始めていることである。

そのような中、新学習指導要領の完全実施に合わせ、「令和の日本型教育」やGIGA

スクール構想など、学校教育の転換が迫られている。本校においても、昨年度慌ただしく整備された一人一台端末の活用が始まっている。職員研修を行い、一人一台端末の真の活用に向けて、四苦八苦しながら進めているところである。しかし、実際の授業の様子では、多くの児童が、学習用具の一つとして使いこなしている場面が多く見られる。植物の成長を内蔵カメラで記録したり、自分のマット運動の演技を動画に撮り、お手本動画と並べて再生しながら練習に取り組んだりしている。また、ロイロノートを使って、自分の考えをまとめたり、友達の意見と見比べてたりするなどの活動も日常的な風景になりつつある。

コロナ禍で社会の生活様式が大きく変化している中、子どもたちの柔軟で素早い対応力に日々驚かされている。これからも、子どもたちの対応力に負けないよう、気を引き締めて取り組んでいきたい。

(松山市立桑原小学校)



教師の掛ける言葉は



西条市立西条北中学校

渡部 恵一

先日、市内で買い物をして
いた時のことでした。「もし
かして、渡部先生ですか。中
学時代はお世話になりました。
〇〇です。あれから高校
へ進学した後、県外で就職し、
今は地元で自動車整備工とし
て頑張っています。」そして、
「あの時、先生が授業で僕を
褒めてくれた一言で今の僕が
います。」とある教え子から
言葉を掛けられました。

私は、技術科を担当してい
ますが、今から三十年前に赴
任した学校で、三年間担任を
し、将来は技術職を目指す
と話した生徒でした。授業の中
で私が掛けた何気ない一言
で、自分の生涯の仕事につな
がる進路を決めたのです。卒
業後のことや近況を生き生き
と語る彼の姿に、熱いものが
こみ上げてきました。と同時
に、教師の掛ける言葉の重さ
を改めて感じさせられまし
た。逆に、教師の掛ける言葉
で深く傷つく生徒もいたであ

ろうと思うと、この多感な時
期を過ごす中学生に掛ける一
言が及ぼす大きさを改めて感
じました。

私もあと半年ほどで教員生
活を終えます。これまで、数
え切れない数の生徒を見送っ
てきました。教科の時数の関
係で、どの学校へ行っても全
校生徒に技術の授業を教えて
きました。そのため、卒業式
で心が揺れなかった時はあり
ません。様々な困難を抱えた
生徒や御家族と接してきました。
毎日表情と態度を変える
生徒もいました。暴力や自分
を傷付けることでしか自分を
表せない生徒もいました。し
かし、卒業式後に、「これから頑
張ります。ありがとうござい
ました。」と言われると、全
てが良い思い出となります。

私が最初に赴任した学校の
教え子は、五十代前半になり、
家族をつくり、様々な場で活
躍しています。同級生の子ど
もが生徒で在籍したり、かつ
て受け持った教え子が保護者
となっていたり、また、同じ職
場で教職員として出会うこと
もあり、その笑顔と成長した
姿を見るとうれしくなります。
振り返ると、学級担任、学
年主任、部活動顧問として、
ほとんどの時間を教師として
過ごしていたよう
に思います。様々
な場で会って話す

時、「あの時はきつい言葉を
言ったね。決断していい先生で
はなかっただろ。」と言いま
すが、ほとんどの教え子が
笑って話してくれます。こん
な未熟な私と共に学校生活を
送ってくれた生徒たちに感謝
の気持ちと申し訳なさがあふ
れてきます。

今、コロナ禍で、様々なと
ころで制限のある学校生活で
すが、これから生徒たちと限
られた時間をどう向き合っ
ていくか、そしてどんな一言を
掛けていけるかを考え、一日
一日を過ごしていきたいと
思っています。

学校での授業、行事、部活
動が楽しく意義あるものとな
るように、残された期間を精
一杯楽しめ、生徒たちと共に
毎日を生きたいと思います。

変わらないこと



愛媛大学教育学部附属小学校

辻 健一

四月から勤務校が変わり、

右も左も分からないまま、一
学期が終わった。「新しいご
み袋はどこですか。」「音楽室
に行くときはどこを通ればい
いですか。」など、言ってい
ることは初任者のときと変わ
らない。日直巡視の仕方を教
えてもらっているにもかかわらず、
メモを取らずに各教室
の掲示物に見とれる。本当に
何も変わっていない。

このままではまずい。成長
していない。そんな思いから
十数年前と同じように、教師
力向上の助けを求めて何度も
本屋へ足を運んだ。本を選ぶ
ときは二通りの自分なりの選
び方がある。一つ目はタイト
ルに求めているキーワードが
書いている本を選ぶ方法。例
えば、「対話」「深い学び」「論
理的思考力」「自主学習」な
ど、自分の興味がある本や勤
務校の研究テーマと関連して
いる本を選ぶ。二つ目は、「何
となく」選ぶ方法。何となく
本が「この本を読みなさい。」
と言っている気がして無意識
に手に取っているときがあ
る。一つ目の選び方は初任者
のときにはあまりしなかった
が、二つ目の選び方は初任者
のときと変わっていない。手
に取る本は教師論や学級経
営、子どもへの接し方に関す
るものが多い。自
分が無意識に求め
ているものはきつ

と初任者のときから変わって
いないのだろう。

「買って終わり」ではなく、
「買った後少しでも読む」とい
う点は、初任者のときから変
わった。コロナ禍の影響もあ
り、この夏は、実際に購入した
本をゆつくり読むのにより機
会であった。もちろんオリ
ンピック観戦の誘惑に負けて、
「ながら読み」である。ながら
読みをしていると心に留まる
言葉があった。それは「啐啄
同時」という言葉である。教
育の視点で捉えようと、学びた
いという学習者の気持ちと、
適切な刺激を与えて教え導くこ
うとする指導者の気持ちとが噛
み合えば、実りある成果が得
られるということである。初
めて出会ったはずの言葉に強
く共感し、大切にしたい言葉
の一つとなった。その後に読
んだ数冊の本にも同じ言葉が
出てきたのだから、もう運命
としか言いようがない。

これまでの教員生活を振り
返ってみると、子どもの「学
びたい」を引き出し、それに
応えたいという思いで楽しい
授業づくりに努めてきた。ま
た、周りの先生方は、教えを
請う未熟な私に大切な教育観
を語ってくれたり、指導法を
教えてくれたりした。まさに
「啐」と「啄」の関係は初任
者のときからずっと変わって
いない。でも、それでいい。

みんなの



伝えていきたい地図記号



西予市立野村小学校

佐藤 正義

小学校三年生の社会科では、地図記号を学習します。その中に「自然災害伝承碑」という記号があります。これは、平成三十年の西日本豪雨をきっかけとして、国土地理院が令和元年度に作成したものです。新しい地図記号が出来るのは、平成十八年の「風車」と「老人ホーム」以来十三年ぶりです。「風車」と「老人ホーム」の地図記号が出来たときは、面白い記号が出来たなと思います、授業でも取り上げたのですが、「自然災害伝承碑」については、恥ずかしいことに全く知りませんでした。私がこの地図記号を知ったのは今年の夏休みのことでした。

今回、西予市総合的な学習の時間委員会での研修として、所属する委員で実地研修を行いました。

まず、被災して復旧した乙亥会館の災害展示室で資料を見ながら、語り部さんに災害の様子を話していただきました。生の声を聞くことで、当時の様子を改めて思い出ししました。被災された語り部さんの言葉には、何とも言えない重みを感じられました。

次に、実際に町を歩きながら、災害時にその場所のできたことやその場所の地形の特色、歴史などについて学んでいきました。私が地図記号の「自然災害伝承碑」を知ったのはこの時です。神社に着いたとき、講師から江戸時代の浸水被害のことについて次のような話がありました。この場所は、以前から浸水の被害が起きやすい場所であったこと、被害を防ぐために御神体は高い場所にあること、被害の様子を後世に伝えるために石碑があること、そして、令和元年度に「自然災害伝承碑」の地図記号が出来たことなどです。

後ほど詳細を調べたところ、全国で千十四基、愛媛県で六基が「自然災害伝承碑」として地図に登録されていることが分かりました。残念な

広場

が私が見た石碑は登録されていませんでしたが、災害の状況を伝える大切な石碑であると感じました。本校では、昨年度から六年生が、「災害から学ぶ」パッケージ学習を行い、身近な生活から防災・減災について調べ、まとめる学習を行っています。今後もこのような学習を続けるとともに、新しい地図記号についても積極的に伝えていきたいと考えています。

ふるさとを誇りに思う子どもたちを育てる



宇和島市立住吉小学校

信藤 明秀

秋田県のある村長さんの話を、尊敬する先生から聞いた。「村で一生懸命に子どもを育てる。でも、専門学校、大学に行く村から出て行ってしまふ。そして、帰ってこない。立派な教育をすればするほど帰ってこない。」この言葉は、まさに宇和島のこと

だと思った。

地元に戻りたい、地元とつながり続けたい。人がそう思えるかどうかは、地元のことがどれほど好きかということにかかっている。そして、好きになるかどうかは、地元のいいところをどれだけたくさん体験しているかということにかかっている。私は、そう考えた。

子どもたちが宇和島のいいところをたくさん体験できるようにな事業をした。私は、立ち上げるために、その道の先駆者や観光カリスマ、若松進一さん（双海）など、たくさんの方から話を伺った。

そうして平成二十六年秋に始めたのが、「うわじま子ども観光大使」だった。当時講座は三つ。一つ目は、真珠玉出しとアクセサリー作り。アコヤ貝から自分の手で真珠を取り出し、それを使ってアクセサリーを作る。二つ目は、みかん狩り。自分の手で収穫し、さらに、取れたてのみかんを手で搾ってジュースにし、飲み干す。三つ目は、鯛めし作り。鯛をいけすから上げ、締め、三枚におろし、皮を上げし、刺身にする。たれを作り、鯛めしとして食す。平成二十八年二月、この三つを体験した子どもたちが、市長さんから認定証を受け取った。

十四名の小学生が参加し、教員の仲間に手伝ってもらいながら始めた第一期から七年が経過し、現在第八期。「うわじま圏域子ども観光大使」となり、対象地域が宇和島市、鬼北町、松野町へと広がった。三市町から直接支援を受け、宇和島市教育委員会生涯学習課にサポートしていただくようにもなった。各会場では保護者スタッフが機転を利かしつつ、活動を安全に、そして楽しく進めている。宇和島から二年遅れで平成二十八年に始めた「えひめ子ども観光大使」も、令和元年度から愛媛県との共催になり、子どもたちは中村知事からの認定証を受け取っている。こちらも愛媛県の観光国際課がサポートし続けてくださっている。

このところ、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっているが、収束するときに必ず来る。今は、Withコロナでもできることを保護者スタッフと共に考え、楽しく実行している。これからも、ふるさとのが大好きになり、誇りに思う子どもたちを、楽しみながら育て続けていく。



四国中央支部

伝統の楽器を伝える

四国中央市立北小学校

瀬野 一帆

北地区には、二絃琴という古くから伝わる楽器があります。その名の通り、二本の弦を弾いて演奏する二絃琴は、八雲琴とも呼ばれており、江戸時代に中山琴主が創始しました。

本校には、そんな二絃琴の練習をする「二絃琴クラブ」があります。今年度は、四年生と五年生の児童五名が所属し、活動日には学校近くの神社で、地域の伝承団体の方から教わっています。

子どもたちのほとんどは、このクラブで初めて二絃琴に触れます。礼儀作法や道具の



初の二絃琴に挑戦！



先生に教わりながら

使い方、譜面の読み方から丁寧に教えてくださるので、どの子もしっかりと先生方のお話を聞きながら頑張っています。初めのうちは、弦を弾くときの構え方にも「指がつりそう……」と言っていた子どもたちも、一年を通してどんどん上達していきます。それでも正座での練習はなかなか慣れない様子。毎回のよう「足がしびれた！」という言葉が飛び出しています。

練習では、子どもたちに馴染みのある童謡の他にも、古くから伝わる曲も演奏しています。初めての子どもたちにとっては難しく、弾き方がよく分からなくなったり、弾いている箇所が分からなかったりすることもあります。それでも、もともと上手に弾けるようになると毎回の練習を頑

各地だより

松山支部

地域の達人に学ぶ

松山市立中島小学校

井上 翔子

本校は児童数三十八名の小規模校で、姫ヶ浜ビーチやみかん畑をはじめとする中島の

張っています。そうして練習を重ねてきた成果は、毎年の校内音楽会で発表しています。大勢の前で演奏するので、出番の前にはどの子も緊張した面持ちになります。いざ出番となると、練習の成果を存分に発揮し、全校児童や保護者、地域の方々から大きな拍手を頂けるので、皆が笑顔で終わることができています。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、校内音楽会も縮小して開催。全校の前で発表することはできませんでしたが、今年度は発表に向けて一生懸命に練習をしています。

豊かな自然と、地域の優しい人々に恵まれた環境の中にあります。「たくましく心豊かな中島つ子の育成」の教育目標の下、地域の伝統を守りつ、「心やさしい子」「考える子」「がんばる子」を育成することを目指して様々な教育活動を行っています。今回は、地域の方々から学ぶ、中島ならではの活動を二つ紹介します。



大きな鯛をつかんだ児童

一つ目は、五・六年生が行う「道具踊り」です。道具踊りは、松山市指定無形民俗文化財であり、中島の小浜地区

で受け継がれる伝統芸能です。なぎなた、太刀、くさり鎌を使った三通りの振付があり、男女が交互に並んで踊ります。今年度も、「道具踊り保存会」の方々に指導に来ていただきました。第一回の練習では、マンツーマンで丁寧な振付を教わった後、早速詩吟に合わせ、一曲通して踊りました。習った踊りは、例年、松山北高中島分校との交流行事として、中島分校の運動会や中島公民館主催の文化祭で披露しています。今年度は感染症対策により、発表の場はなくなってしまうましたが、中島の歴史や文化を学ぶ総合的な学習の時間へとつなげていく予定です。



道具踊りを教わる高学年児童

今後ともこうした地域と連携した活動を大切に、ふるさと中島で育つことに自信や誇りを持てるような児童の育成を目指したいと思います。